

# 赤十字 NEWS

DECEMBER 2019  
NO.955  
**12**

令和元年12月1日(毎月1日発行)  
赤十字新聞 第955号  
昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

気候変動に  
苦しむ人々を  
救う

<http://www.jrc.or.jp>



© Atsushi Shibuya/JRCS(P.1-3)

NHK 海外たすけあい | 12.1 (Sun) ~ 25 (Wed)

地球全体で起こっている気候変動。  
その影響を受け、日々の生活、そして命を脅かされている人々があります。  
日本赤十字社では今年も「NHK 海外たすけあい」キャンペーンを展開し、  
気候変動に苦しむ人々を救うための支援活動を行います。  
皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

**CONTENTS**

**FEATURE\_\_2・3**

世界を揺るがす  
気候変動

モデルビレッジ事業

**TOPICS\_\_4**

NHK海外たすけあい

**TOPICS\_\_5**

国際赤十字が世界に伝えた  
台風第19号災害

赤井十子さんの  
ワクワク赤十字体験！  
「国際会議」のお仕事

**AREA NEWS\_\_6・7**

京都/群馬/香川/徳島/静岡/  
長野/岐阜/三重

健康豆知識「海外感染」

**WORLD NEWS\_\_8**

病院緊急対応ユニット(ERU)  
1枚の写真から  
気候変動の災害リスク



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室  
〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3  
TEL: 03-3438-1311  
一部 20円  
赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

 **日本赤十字社**  
Japanese Red Cross Society

NHK 海外たすけあい | 12.1 (Sun) ~ 25 (Wed)

# 世界を揺るがす気候変動

## 「モデルビレッジ事業」でレジリエンスを高める

世界中で起きている気候変動を原因とした自然災害は、人道危機へと直結する危険性をはらんでいます。気候変動そのものを止めることは難しくても、自然災害に対するレジリエンス(立ち向かう力、回復する力)は高めることができます。日赤が今年スタートさせるルワンダでの支援事業のリリースに同行した日赤福島県支部職員・高橋郁弥が、現地の様子をレポートします。

たかはし ぶなや  
リポーター 高橋 郁弥  
1991年生まれ。日赤福島県支部にて赤十字の講習事業や救護活動に従事。赤十字救急法指導員、幼児安全法指導員、防災教育事業指導員。誰かの役に立ち、支えになる仕事をしたいと日赤に入社。「実際に現地に行き、人々と接することで初めて気づくことがある」と日々の業務から学ぶ。



### MODEL VILLAGE REPORT #1 支援を待っている村

ルワンダで、他国赤十字社が先行して行っている「モデルビレッジ事業」。いよいよ今年から日本赤十字社も本格的に参入します。日赤が支援を予定しているのは南部(ギサガラ郡)の5つの村。そのうちのひとつ、ニャビハマ村を訪問しました。この村では生活に必要な水を得るために片道約30分、20kgにもなるポリタンクを持って1日に何往復もします。苦勞して運ぶ貴重な水は手や体を洗うには足りず、不衛生で病気にかかりやすい状況で、水くみのために学校にいけない子もいました。自分も一緒に体験したことで、子どもたちを水くみ作業から解放する支援が必要だと痛感しました。

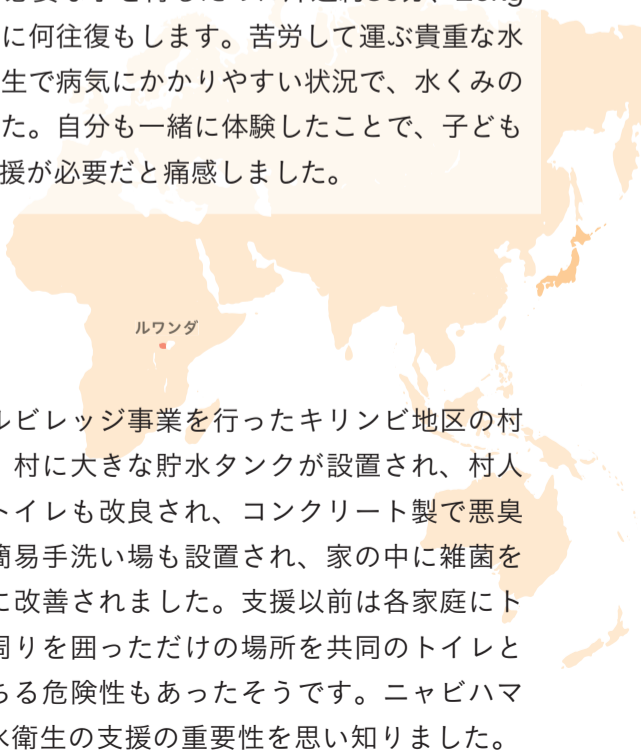
●モデルビレッジ事業とは●  
貧しく脆弱な農村地域のレジリエンス(回復する力)を高めるため、ルワンダ赤十字社が始めた事業です。健康・衛生・水・暮らしなどの生活環境の向上を目指した取り組みを続け、現在、数カ国の赤十字社がこの事業をサポートしています。これまで日赤はルワンダの保健や防災の啓発事業を支援してきましたが、新たに「モデルビレッジ事業」に参入し、関係性を深めていきます。



村に作られた簡易手洗い場。他にも入浴場が作られるなど、衛生環境が向上した

### MODEL VILLAGE REPORT #2 水と衛生

オーストリア赤十字社がモデルビレッジ事業を行ったキリンビ地区の村は水環境が劇的に変化しました。村に大きな貯水タンクが設置され、村人は水くみから解放されました。トイレも改良され、コンクリート製で悪臭もなく清潔に保たれています。簡易手洗い場も設置され、家の中に雑菌を持ち込まないよう徹底するまでに改善されました。支援以前は各家庭にトイレはなく、村人が穴を掘って周りを囲っただけの場所を共同のトイレとして使用。子どもが深い穴に落ちる危険性もあったそうです。ニャビハマ村との違いを目の当たりにし、水衛生の支援の重要性を思い知りました。



### MODEL VILLAGE REPORT #3 教育・啓発

実はルワンダでは2012年から日赤による保健や防災の啓発活動が行われていました。その活動が新たにモデルビレッジ事業の柱の1つとなります。感染予防の啓発に効果を上げているのがモバイルシネマです。娯楽の少ない場所で手洗いの方法などを紹介したアニメ映画を上映し、楽しみながら村人たちに正しい知識を身につけてもらう工夫がされていました。また、山や丘の多いルワンダで無計画な森林伐採が進み、そこへ繰り返し豪雨が襲い地滑りが頻発しています。木を切らず煙も出ない環境に優しいバイオマス燃料へ切り替えることで、薪を使わずに調理ができ、燃料を売って収入も得られるようになりました。



保健・衛生知識の普及を行うモバイルシネマ。映画の後は理解を深めるクイズの時間も



バイオマス燃料は無煙のため、呼吸器系の病気が減り、環境にも優しい  
無計画に伐採された山にはテラス(水の逃げ道)を作り、その周囲に植林をして地すべりを食い止める

### MODEL VILLAGE REPORT #5 生計支援

地域の連帯を強化するモデルビレッジ事業には、共助のシステムが多く取り入れられています。個人で耕作地を持つことが難しい農民のために、赤十字が土地を借り、村人たちが管理や効率的な作業を学んで実践する共同菜園や、家畜を提供することで生計を立て直してもらい、家畜に子どもが生まれたら別の家に寄付するという仕組みがあります。村人同士が共同で貯金をし、必要なところに融資するグループも結成されるなど、地域のつながりが強いことに驚きました。これは、1994年に起きた大虐殺から今に至る過程で共助の精神が根付いたルワンダならではの成功例だということを忘れてはなりません。



住民が共同で管理する菜園。苗床育成の知識も取り入れ、状態の良い野菜が収穫できる  
貯金融資グループの通帳には、手書きで貸し借りの詳細が記録されている

### MODEL VILLAGE REPORT #4 栄養指導



食事指導で栄養バランスの取れた食事が振る舞われた

モデルビレッジ事業では、子どもの栄養失調を防止する取り組みも行われています。母親や子供を集め、ルワンダ赤十字社のボランティアが牛肉、豆、ほうれん草や牛乳といった食材を調理して無償提供、バランスよく栄養を取ることで病気も予防できることを指導します。今の日本では考えられませんが、栄養バランスなど考えたこともなく、毎日毎食、豆料理を1品しか食べない家庭もあると聞き、知識の普及の大切さを実感しました。

### ルワンダでのリサーチを終えて

東日本大震災の後、ルワンダ赤十字社から多くの支援をいただきました。その寄付は、厳しい生活の中から1食抜いた分のお金を寄付するなどして集められたものでした。支援へのお礼を各地で伝えると、「困ったときはお互い様だ」と誰もが答えます。ルワンダでは25年前に大虐殺があり、その影響で人々の心深くに助け合う精神が根付いています。そんなルワンダの方々には、支援の恩返しをする。日赤の本格参入によって、まだ支援が届いていなかった村の生活が変わることが、自分のことのようにうれしく感じました。

### 貧困な地域がさらに貧困化する… 気候変動が生み出す負のループ

いま、世界のあらゆる地域で、これまでにない高温・干ばつ・豪雨が交互に来て、自然の気候に頼る農業が大深刻なダメージを受けています。ルワンダも例外ではありません。農村の貧困が進んだのは、気候変動により雨期のタイミングがつかめなくなり、いつまでも種まきができず、あるいは種まきしても流れされ…と、どんどん収穫量が落ちていったから。このように、脆弱な農業は、ダメージから回復できないまま次のダメージを受け、さらに食糧不足から子供達の栄養失調へ、という負の連鎖が起きています。赤十字は世界的な取り組みとして、脆弱な地域の回復力を高め、危機に立ち向かえるようになることを目指し、さまざまな事業を展開しています。そして日赤が毎年募集している「海外たすけあい」の寄付金が、この活動を支えているのです。



日本赤十字社 国際部 開発協力課長 つかた たかひろ



# NHK 海外たすけあい | 12.1 (Sun) ~ 25 (Wed) 気候変動と人道危機



キャンペーン動画：前向きに生きるルワンダの子どもたちの声を届けます！

気候変動は世界中の人びとの暮らしに直結する深刻な問題です。日本赤十字社は大雨や洪水で住むところを失った人、干ばつで飢餓に苦しむ人など、国際社会の関心や支援が十分に届いていない人びとを救うことに力を入れています。今年、NHKと日赤が共同で行う「海外たすけあい」では気候変動がもたらす人道危機にスポットをあて、支援を呼び掛けます。



キャンペーンポスター

詳しくは特設サイトへ▶

日赤 海外たすけあい 検索



## 気候変動で世界はどうなる!? こども天危機予報士が2050年を予測するWEBサイト

2050年、気候変動によるさまざまな問題は世界中に広がり、未曾有の危機となっているかもしれません。日赤は、未来の地球にいったいどんなことが起こるかを予測する特設 WEBサイト「天危機予報」を開設しました。このサイトでは、こども天危機予報士に任命された「つぐちゃん」が、日本、アメリカ、オーストラリアなどの国々で約30年後に起こりうる世界の危機を予報します。

**2050年 世界で起こりうる危機**

2050年、気候変動によって様々な危機が起こると言われています。そんな数多くの危機予想の中から、5つの地域での予想を取り上げます。

- 北アフリカに人が住めない
- 熱や乾などの影響で6,500人が死亡
- NYの1/4が洪水被害
- オーストラリアから冬がなくなる
- アマゾンの木々が消滅

世界各地で起こりうる危機を見ましょう

世界で起こりうる危機の監修  
環境学者 江守正多さん

**天危機予報**  
2050年世界で起こる危機

海面上昇、サイクロン、高潮、異常気象、熱帯暴風雨、山火事、洪水、干ばつ、集中豪雨、砂嵐、地球温暖化、都市水没、落雷、森林火災、火山噴火、熱中症、台風被害、ハリケーン、熱波

### 【この2人が案内します】



天危機予報士 つぐちゃん  
世界各地で起こる気候変動による、さまざまな危機を発信する天危機予報士として、ウェブサイトナビゲートします。普段は読書やイラストを描くことが趣味の小学校4年生の女の子。



コンテンツ監修 環境学者 江守正多(えもり せいいた)さん  
国立環境研究所地球環境研究センター副センター長。地球温暖化の将来予測とリスク論の専門家で、「異常気象と人類の選択」など著書も多数。

詳しくは特設サイトへ▶

日赤 天危機予報 検索



### 「世界の子どもたちが描いた絵」を先着100名にプレゼント!

日本赤十字社が支援を行っているバングラデシュ、インドネシアなどの国では、子どもたちに防災教育やこころのケアを行っています。その活動の中で彼らが描いた絵をプレゼント。世界のどこかで今なお困難に立ち向かっている子どもたちの作品です。海外たすけあい専用のクレジットカード寄付ページから1回20,000円以上のご寄付をいただいた方、先着100名さまにお届けします！寄付方法は7ページをご確認ください。



※ 12月1日からの寄付が対象になります。※対象国やプレゼントの内容は選べませんのでご了承ください。  
※ 3月末までの発送をもって該当者の発表と代えさせていただきます。

### NHK テレビ番組情報

気候変動に苦しむルワンダに、私たちはどんな支援ができるでしょう。連続テレビ小説「なつぞら」で小畑夕見子役を演じた女優の福地桃子さんが、みずみずしい感性で真摯(しんし)に向き合います。特集ページでルワンダのリポートをした高橋さんと福地さんとの対談も収録。ぜひご覧ください。

### 「あなたのやさしさを2019 ~NHK海外たすけあい~」

2019年12月7日(土) 17:50~18:00 [総合]ほか

※緊急報道などにより予告なく変更になる場合があります



TOPICS

# 国際赤十字が世界に伝えた台風第19号災害 「多くの家族が、何もかもを奪われた」

ラグビーワールドカップで世界からの注目が集まる中、巨大な台風第19号(ハギビス)が日本に上陸。国際赤十字・赤新月社連盟も国際広報のスペシャリスト、キャロライン・ハガ特派員を日本に派遣、キャロラインは日赤職員と被災地を回りながら世界に向けて被災地の状況を発信しました。

### キャロラインのツイッター

■10月12日:  
キャロライン、東京の日赤本社到着。日赤職員と車で被災地へ。  
世界に向けてツイッターで発信。

twitter 「本社と災害地域の日赤チームが、被害状況や医療支援の要望を確認し、迅速に対応している。大雨の被害が広範囲に及んでいるため、まだ多くの地域にアクセスできない状態にある」

■10月13日:  
道路が浸水するなど交通アクセスが困難な中、  
栃木県の大平下病院に到着。  
被災者支援に取り組む日赤医療チームと合流。

twitter 「1階部分は泥だらけで停電している。幸運なことに、台風の間、患者さんたちは2階にいた。日赤病院のスタッフを含む災害医療チームは、緊急治療が必要な方たちを他の病院に避難させた」



■10月13日:  
福島の梁川から人々の痛ましい状況をツイート

twitter 「(ここに暮らしていた)家族たちは、すべてのものを失ってしまった。商店は店の商品を失った。道路にあるものは流された。胸が張り裂けそう」



今回、被災地で出会った人々の言葉や態度に、どれほど感銘を受けたことか。川の氾濫で家が沈み、流され、何もかもを失ってもポジティブな精神を保つことができる日本の人々。その回復力に驚かされました。そして日赤スタッフとボランティアの献身的な努力。彼らは被害が出る前から念入りに準備をし、災害発生後すぐに物資を配り、訓練を受けた医療チームが被災病院へ救出に向かい、避難所にいる人々の健康診断を実施しました。素晴らしい連携でした。日赤チームとボランティアのたゆまぬ努力を、心から称賛したいと思います。



キャロライン・ハガ  
Caroline Haga

### フランスのラジオ局RFIからインタビューを受けて

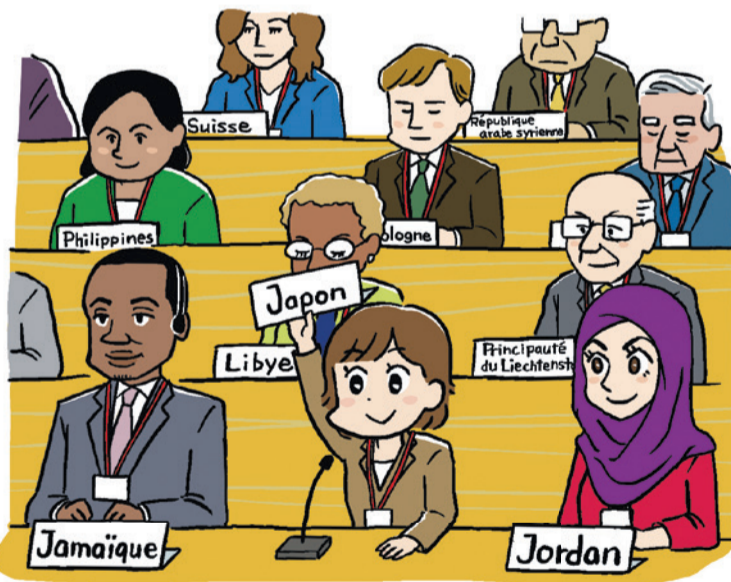
#### Q.日本と他の国々の対応の違いは？

Radio France Internationalから取材を受け、キャロラインは「日本は台風が上陸する前から避難勧告を発令するなど、事前の備えが他の国よりも進んでいると感じた。こうした動きがなければ、記録的大雨の被害はもっと大きかったのではないかと答えました。

## 赤井十子さんの ワクワク赤十字体験!

### vol.7 災害や紛争など世界の問題を話し合う国際会議のお仕事

取材場所  
「赤十字国際会議」(スイス・ジュネーブ)



1200人規模の会場で、活動報告やボランティア表彰など、さまざまなプログラムが行われます。会議での意見は国名のプラカードを挙げて発言します。



会議をしていない時間には他国赤十字社と災害などの最新情報を交換したり、課題を抱える国の相談に応じたり、活発にミーティングします。

#### 世界中の赤十字が集まる会議で、日赤も活動内容を積極的に発信

4年に1度、世界191の赤十字社・赤新月社と政府の代表が集まる最高議決機関「赤十字国際会議」に参加しました。世界中で起きる災害や紛争には、社会情勢、経済事情、歴史、環境問題など、多くの要因が絡み合っています。この会議では世界中の赤十字が「苦しんでいる人を救う」という共通の目標に向け、赤十字に求められる課題や、活動方法などについてのさまざまな議論が交わされます。日本赤十字社は、気候変動による自然災害に対応するための取り組みについて各国に発信しました。世界の赤十字が一堂に会する貴重な機会です。全体の会議の他にも2国間ミーティングや、今年はユースの代表者を決める選挙など、たくさんのサイドイベントが行われます。



あかいとおこ  
赤井十子さん。  
困っている人の役に立ちたい40代のママ。1年間のボランティア経験を経て、日本赤十字社の特命職員に！さまざまな活動をわかりやすく体験レポートします。

# AREA NEWS

全国各地、あなたの生活のすぐそばで、日本赤十字社の活動は行われています。

## 京都府

### 東日本大震災避難者30人とバスツアー 悩みを共有して解決の道を探る

日赤京都府支部では、東日本大震災復興支援事業として「博物館明治村 日帰りツアー」を10月6日に実施しました。京都府と大阪府へ避難している30人の方々がツアーに参加。NPO法人「和(なごみ)」との共催によるこの企画は、日帰り旅行を通じて被災者の悩みや解決への道を探る場にもなっています。道中では参加者たちが近況などを確認し合っていました。



今年で3年目の開催。貴重な交流の場を継続することの意義を再確認

## 群馬県

### 献血に訪れた利用者へ ネイルケアの無料サービス！

10月30日、前橋献血ルームで群馬県美容専門学校(長野、諏訪)の学生による無料のネイルケアサービスが行われました。これは学校献血の協力校である同校が実習の一環として実施。きれいに磨かれ、保湿ケアで美しくなった指先に、利用者も大満足。女性や若年層に献血ルームの利用をアピールする絶好の機会となり、専門学校生は「私たちに貴重な経験になった」と語りました。



献血に訪れた人々に向けて、本格的なネイルケアを提供

## 長野県

### 夢への一歩を踏み出す… 誓いを新たに、最後の戴帽式

10月、長野県内にある2つの赤十字看護専門学校(長野、諏訪)で戴帽式が行われ、合わせて67人の1年生に看護師の象徴であるナースキャップが授けられました。2年後に閉校が決まっている長野赤十字看護専門学校では、最後の戴帽を受けた学生が「先輩が紡いできた歴史を守り、立派な仕事ができるようになりたい」と述べ、夢に向けての第一歩を踏み出しました。



ナイチンゲール誓詞を唱和し、看護の精神を心に刻んだ(長野県)

## 徳島県

### 台風第19号の被災地へ。中学生たちの「徳島からできること」

徳島県では青少年赤十字の加盟校・北島中学校の学生たちが北島町のフリーマーケット「きたじまるしえ」にボランティアで参加し、台風第19号災害義援金を呼び掛けました。この活動は中学生たちが自主的に行ったもの。10月31日、北島中学校の生徒会は日赤徳島支部を訪れ、義援金3万6281円を寄付しました。この義援金は被災者に全額届けられます。



手作りの募金箱を手に会場で義援金を呼び掛ける中学生

## 常任理事会開催報告

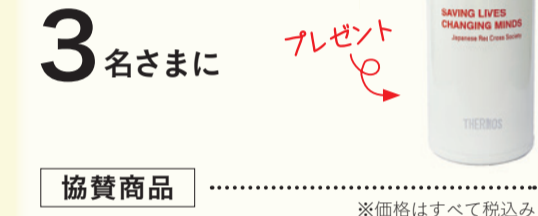
令和元年11月27日、本社において令和元年度第7回の常任理事会が開催されました。今回の常任理事会は、付議事項はありませんでしたが、令和元年度上半期における各事業の進捗、大阪赤十字看護専門学校の閉校および予算の補正にかかる10月分の社長専決事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

## 理事会開催報告

令和元年11月27日、本社別館(PMO芝公園)において令和元年度第2回の理事会が開催されました。今回の理事会は、付議事項はありませんでしたが、令和元年度上半期における各事業の進捗、赤十字病院グループが直面する地域医療構想、令和元年台風第19号にかかる日本赤十字社の対応、令和元年度NHK海外たすけあいについて、それぞれ報告しました。

## present プレゼント

### 「海外たすけあい」協賛商品から サーマス真空断熱 ケータイマグ (0.35ℓ)



3名さまに プレゼント ※価格はずべて税込み  
真空断熱ケータイマグ 左:0.35ℓ (2650円) 右:0.5ℓ (2900円)  
マグカップ (850円)  
A5ノート (270円)

12月1日～25日の期間中に海外たすけあい協賛商品をご購入いただくと、売り上げの10%が「海外たすけあい」に寄付されます！ 詳細は日赤サービス、同オンラインショップにてご確認ください。

【お問い合わせ・ご注文】  
日赤サービス  
TEL:03-3437-7514  
FAX:03-3459-1432  
日赤サービス  
オンラインショップ

希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。  
①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)  
②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢  
⑤赤十字 NEWS12月号を手にした場所(例/献血ルーム)  
⑥12月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか？  
(いくつでも)  
A.表紙 B.世界を揺るがす気候変動～モデルビレッジ事業 C.NHK海外たすけあい D.国際赤十字が世界に伝えた台風第19号災害 E.わくわく赤十字体験 F.エリアニュース G.健康豆知識 H.プレゼント  
I.ワールドニュース J.1枚の写真から  
⑦赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他 Voice(読者の声)への投稿もお待ちしております。  
郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3 日本赤十字社 広報室 赤十字 NEWS12月号プレゼント係  
FAX / 03-6679-0785 メール / koho@jrc.or.jp (件名「赤十字 NEWS12月号プレゼント係」)  
12月27日(金)必着  
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

## 日々の訓練で非常事態に備える！ 災害時の連携などを再確認

全国の日赤支部では常日頃からさまざまな研修や訓練を実施しています。9月・10月は、災害時における救護救援訓練が各地で行われました。

香川県支部では9月19日と10月15日の2日間、「支部・施設合同救護員基礎研修会」を開催し、香川県支部・高松赤十字病院・香川県赤十字血液センターから61人が参加。熊本地震や西日本豪雨での救護活動をもとにしたシミュレーションな

ど、災害救護活動に必要な知識と技術を学びました。

徳島県支部は11月1日、夜間の停電を想定した避難所支援訓練を実施。徳島県赤十字救護救援奉仕団の20人が参加し、ガソリンでもガスでも稼働可能なハイブリッド発電機や、省電力・長寿命のLED投光器といった資機材を活用し、暗闇の中での支援活動に取り組みました。



香川県内の日赤関連施設から「オール日赤」の面々が研修に参加



停電で暗闇となった避難所での放さ出し手順なども確認

## 静岡県

### 令和初の栄冠をかけて！ 救急法競技会に 514人が参加

日赤静岡県支部は10月5日に「第9回赤十字救急法競技会」を開催。県内から514人が参加し、三角巾を使った応急手当など4つの競技で68チームが競い合いました。総合優勝を勝ち取ったのは御殿場市赤十字奉仕団(一般の部)と静岡県立藤枝東高校(高校生以下の部)。会場には奉仕団によるエコバッグ作り体験などの「交流コーナー」も設置され、大会を盛り上げました。



競技会は真剣勝負！ 開始前に全員で準備体操を行います

## 岐阜県 三重県

### 日赤支部130周年記念大会を開催 吉田沙保里さんの記念講演も！

日赤岐阜県支部と三重県支部は今年で創立130周年を迎え、記念大会を開催しました。

9月26日に実施された岐阜県支部の記念大会には、日本赤十字社名誉副総裁・高円宮妃殿下がご臨席。約1300人の関係者が集まった会場で功労者への表彰などが行われました。式典後、高円宮妃殿下は、JRC加盟校である岐阜希望が丘特別支援学校をご訪問され、避難訓練の様子などを熱心

にご覧になられました。

10月19日の三重県支部の記念大会には、同県津市出身のオリンピック金メダリスト・吉田沙保里さんが来場し「何事も夢や目標を持って、チャレンジする大切さ」というテーマで記念講演を行いました。三重県総合博物館では日赤の歴史を振り返る「日本赤十字社展」も開催。洋画家・東郷青児が寄贈した絵画や看護服などが展示されました。



式典後、高円宮妃殿下は岐阜希望が丘特別支援学校をご訪問



「競い合う仲間がいたから頑張れた」と講演で語った吉田さん

### 日赤のドクター&ナースが教える 知って良かった！

## 健康豆知識



### 海外旅行から帰国…こんな症状があったら要注意！

秋田赤十字病院 検診部 検診副部長 遠田耕平 (とおだこうへい)  
秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢 222-1 TEL:018-829-5000

海外には日本では発生していない、あるいはなくなるとされる感染症が、今なお流行している地域があります。海外旅行から帰国後に発熱や下痢、発疹といった症状が出た場合は注意が必要です。

海外旅行先で最も感染の可能性があるのが、水や食べ物を介した感染症です。特に日本人は清潔な環境に慣れているため、現地の方が問題なく食べている生野菜やフルーツなどでも下痢(大腸菌やサルモネラ菌による感染症など)を起こすことがあります。多くの場合は自然に回復しますが、中にはコレラや腸チフス、細菌性赤痢といった重篤な感染症も潜んでいます。

また海外では動物が媒介する感染症も多く見られます。マラリア・デング熱・黄熱病(蚊)、狂犬病(犬や野生動物)、

鳥インフルエンザ(鳥類)などがあり、それらの初期症状は発熱や悪寒など風邪の症状に似ています。渡航先ではむやみに動物に触らない、蚊に刺されないようにするなどの注意が必要ですが、不安がある場合には空港に設置されている検疫所に相談しましょう。

残念ながら海外で流行する感染症に詳しくない医療機関もあり、特にマラリアは見落とされて対処が遅れ、重篤になる事例も報告されています。具合が悪くなったら速やかに医療機関を受診し、海外旅行で感染した可能性や、渡航先や滞在期間を必ず伝えてください。また感染症の多くがワクチンや予防薬で防ぐことができるため、流行地域に渡航する場合は時間的な余裕をもって医療機関に相談すること。楽しい旅行にするためにも、自己防衛を心がけましょう。



感染後、数週間～半年後に発症する病気もあります。不安を感じたら早めに受診を。

file. 62

## いま支援を必要としている人々がいる 「NHK海外たすけあい」

日本赤十字社・NHK・NHK厚生文化事業団が共同で行っている「海外たすけあい」募金。1983年のスタートから、累計258億円の心温まるご支援を皆様からいただき、紛争・災害・病気で苦しむ人々のため、世界157の国と地域で使われてきました。

日本も震災で苦しい時は世界の国々から多くの支援を受けてきました。海外とともに助け合う、そんな支援の気持ちをこのキャンペーンを通じて、世界の苦しんでいる人々へお届けします。

**「NHK海外たすけあい」の特徴**

- ①歴史と信頼ある募金キャンペーン  
国際赤十字創設120周年、NHK テレビ放送開始30周年という記念すべき年(昭和58年)にはじまり、現在まで、37年続いている歴史のある募金キャンペーンです。
- ②幅広く行き届く支援  
弱い立場の女性や子どもはもちろん、より幅広い人びとに支援を届けるとともに、紛争や自然災害など、さまざまな危機を対象に支援を行っています。
- ③ご寄付の94.5%が実際の支援に充た  
いただいたご寄付の94.5%を実際の海外支援活動に充てており、緊急救援から復興支援、開発協力に至るまでご寄付を有効活用しています。

**ご協力方法**

**〒 ¥ 郵便局・各金融機関**  
全国の郵便局、その他取り扱いのある金融機関で寄付できます。郵便振替(ゆうちょ銀行・郵便局)  
口座番号: 00120-5-220  
口座名義: 日本赤十字社(ニホンセキキョウジヤ)

**インターネット**  
クレジットカードやPay-easyで寄付できます。  
日赤 海外たすけあい 検索 特設サイトへ→

**窓口**  
日本赤十字社の各都道府県支部、NHK放送局などから寄付できます。

# WORLD NEWS

## 日赤の病院緊急対応ユニット(ERU)



70m×50mという広大な敷地に20基以上のテントが立ち並び

## 日赤の最新ERUが世界各国の被災地へ出動準備中！

日赤では病院緊急対応ユニット(ERU = Emergency Response Unit)を新たに整備。初出動に備え、大阪で大規模な展開訓練を実施しました。

### クリニックからホスピタルへ機能拡大 手術、分娩、入院患者に対応

海外での緊急事態や大規模災害発生に備え、日赤が保有している緊急対応ユニット(ERU)。日赤は、大規模な自然災害などの人道危機が多発する昨今の状況を踏まえ、アジアの赤十字社として初めて、海外に緊急展開できる病院緊急対応ユニット(新型 ERU)を整備することを決定しました。

従来の基礎保健緊急対応ユニットではクリニック(診療所)と同等の日帰り診療を基本としてきましたが、病院緊急対応ユニットには手術室や分娩室、最大で約100床に上るベッドも含まれており、ホスピタル(病院)と同じように入院患者にも対応できるようになっています。つまり設備や規模もクリニックからホスピタルへとレベルアップし、さらに高度な医療を被災地で提供できるようになるのです。

ホスピタルレベルの医療を提供する病院緊急対応ユニットでは、手術や分娩の際に使用する輸血用血液の保管設備、各種検査を行うラボ、イスラム教などの人々のための礼拝室なども用意。24時間体制で入院患者や急患に対応するべく、被災地でのERU運営のための人員も現地スタッフを含めて最大で約130人へと大幅に増加されます。

### 気候変動による災害に迅速出動 急ピッチで整備計画を推進中

11月、実際に病院緊急対応ユニットを組み上げる展開訓練を大阪府の高槻赤十字病院グラウンドで実施。これまでに国際救援に参加したことのある赤十字病院の医師や看護師、日赤支部スタッフらが集結しました。また、実際に使用するにあたっては水や電気といったインフラ設備も重要で、一般的な病院の施設管理と同様の作業を行える技師が必要とな

るため、このテストでは専門的な知識を有する株式会社中部プラントサービス(本社：名古屋市)の協力を得て、電気設備面の徹底的な検証を実施しました。

豪雨や洪水、熱波など激しい気候変動による災害増加が今後も予測される中、日赤は新型ERUの整備計画を急ピッチで推進中。準備が完了する2021年から派遣が可能になる予定です。



テント内には手術に必要な医療設備が整備されている



## 世界に降り注ぐ気候変動の災害リスク

かつて暮らしていた自宅のがれきの前で赤ちゃんを抱いているのは、アフリカ・モザンビークのテレサさん(19歳)。今年3月に現地を襲ったサイクロンにより住む家を失い、テレサさんと幼い息子は被災後、赤十字から家の再建に向けた支援を受けています。

国際赤十字・赤新月社連盟による最新レポート「The Cost of Doing Nothing(何もしないことによる代償)」では、2050年までに2億人が気候変動による影響で人道的支援が必要となる可能性があり、災害リスクを軽減する取り組みを個人でもすぐにスタートする必要性について指摘しています。私たち一人一人が「今できること」を見つけて災害に備える姿勢が求められているのです。



無残にも破壊された家の前で「家と人生を取り戻したい」と語ったテレサさん。赤十字の支援を受け、力強く歩もうとしています